



享味
新撰

上州榛名詣

星運堂版

上州榛名詣

K29
U3



K298
14 53

杖神堂ニ
表石あり
室田界
牛玉橋
五丁十妙女
松井因及
明神界まで
そり仕丁
言寄あり
等輪石
三丁いし
谷下名石



二王門より
市宮了て四丁余
市あふより清池
まで十八丁
市神谷いふ
思まで二丁
境内三丁
四方のろち
名嶽四十八
名石四十八
故る由來
甚ま一王門
より茶津
大戸隈

椿名山畧図山



22073

多しと
 山も紙面
 小阿くことわらぬ意く
 畧く

去りて四之の年
 浅る山やけて砂海
 田畑をくらむる
 身を境よ及こも
 浄神の
 砂うす
 神威是也
 誰
 仰
 ま
 ろ
 う
 ん



○榛名山の
 神心を入て由旅所
 の壇場わり又た
 方の溪を隔るる
 向の木立を遊行
 奉と云陽年九月
 九日祭礼は神樂
 遊行奉小法は幸
 わり山中の鑑素供
 奉と云と流る

榛名山詣 烏渡散人
 注林と野別名
 榛名山は
 耳目と野名
 足ふ解る中掛

世の久からず事
還河向まあ七

○八本松より台

間水奈をわり此

可別海あり明神

通云妙山松井

田沢あり風切峠を

越て尚山登り者

は東を北に流るる

は南流の文三河

筆にいふ河川今流んは

中山道なる河川なり

妙義詣の文三河

安富寺にぬお波城

下に石をまきお

より三様の古松あり
わ樹より尚山三羽の
鳥を三羽代八羽鳥
の三徳年毎いけ本
は石を果を結び子を
育て兼て送り中
小跡止るも此雄
二羽小限のあ社半
其の面は三羽の鳥
是に神徳のあ妙

みりては融衣をせり

お手乃ら乎しりり

おの社の袂ふまあ

自に石後より地

しつ清しりり

會鳥まいてり京みやこ省しやう報ほう

事ことのり

○尚なほ中ちゆう藏ざうくも家け

震かんの海うみ時とき中ちゆうに

鞍くら掛か岩いわ首くび尺しゃくの虹にじ

雷かみの生なま生なまはは蛟きゆう

龍りゆうの蟠ばんるる如ごと自し

然しかの形かたち目めとと響ひびき

柳やなぎ子こ衣え意い無な色いろ乳ち

の形かたち師し雷かみ天てんの嶽たけ

出でるるふふ人ひと毎まい後ご村むら

天てん龍りゆうささるる七しち宗しゆうの音ね乃の

日ひをを止とむむのの社しゃええ之之

大だい師しの事ことあり新あたら比ひ

敵たか止とままとと書かき道みち風かぜ

志し蹟せきの親おや今いま字あざ宗しゆう元げんよ

納のるる也や幸しあ村むら也や

打うちちここままささひひのの

吉きちるる乃のはは底そこ波なみ村むら

雨あめ地ち村むら石いし系けい心こころのの

風かぜ天てんの岳たけ雲うみ雷かみをを
突つ刺さるる聲こゑ聲こゑ屋や圓まの
如ごとくく龍りゆう甲か岩いわ大だい黒くろ岩いわ
瓶びん子こ若わか澄すみのの嶽たけ鳥とり
神かみ石いし牛うし神かみ石いし首くび首くび露つゆ
石いし神かみ樂がく殿だん塚づかのの下したに
出で福ふくををてて身みををわわり
上かみ吹ふ敷し百ひゃく仞じんのの雲うみ巻まき
銀ぎん頂てい小せう岩いわをを座ざ二につ
わわりり三さん言ごんのの弥や陀だ

見ゆり河の峰を登
ふ動が嶽烏帽
子の岳冠の岳を
外又渡比山一
善山石垣山岩垣
山原向岳水宮嶽
六八矢槍の宮わり
○石階余級を
登りて身のを若
の備に大神をて

河海ふ名も白川乃
流を流中村橋名
本戸河神も濱村
約取の社をた身
又か一坂

四つて水は流
目疾疼痛の書
ありと云又石階
余級を登れば十
二葉の如きあり
月の敷を知ら
よみて歴序推
名射又石階平
余級をよりて神
前なり

神戸村外橋名の宮
城遠物鳥坂
中宮日田村長年
禪寺も水塚の
高岡七母伝流

○現在を以ての
ふるまの傳は
門の源流の
瀧の流る者の
云々の小角経
しぬり不為所
深なる
○水場の傳の
岩に古碑あり
清水石碑あり

國老しびの守を
大森の神小瀬宮
本戸車載と進分
少老たると大戸乃
中関所平津の温

萬年泉の三三三
雲の雀君謨流長
崎の平君舒とひふ
ひあふ泉中て早
魁の年遠出の
ふのいしぬ神雨
全所此水とて
ゆり軍中社
こればたむ花
わりとふ

泉信州無ひ奈
わつたてり人塚
ふふふふふ
ふふふふふ
ふふふふふ
松虫の

西武山

○茶師堂の福
瑞光佛日月二光
十二神將の生古面
少七堂十八伽藍
と中堂の奉るこ
と名お向の役の初
者重敷百太の志
下はわりの此山の上
小護摩洞と遍
照金別所字記

着目し衣巻の鳳
纏るるへ 蟻 癖
州乃 巨 緯 伸 結
從 織 法 の 志 を 十 二
法 出 の ま お 物 也 し

子時海山

為るをあるをある
又い新ふ山の年
茶師の岳三堂
塔わりを面書る
手取自ら又人昆
首禱摩の作と云
法堂の藤を屋が
向ふ方へは石
そのは首の御書あり
古人の礎記

取しつ 法 派 子 早
如 巾 し 時 更 り 媚
ま へ る 女 布 志 志 志
水 日 日 又 後 々
尾 記 ぐ 神 志 山 風

神心山

○此の神も
ありてあつらひ岩
○本堂の石の春
替木あり稀代の
雷水あり
○此供所は忍鳥の
宮毎の神供と云
ふれば二羽の鳥来
て是成堂といふ
○建久年中

後日松と云ふ
松と云ふ羊の物
磐石の九折の道
下り牛王橋
橋名は神境あり

神心山

大政官は廳室
舟橋名は山本
地と云ふ山本と云
寄以法復國家
恒に徳良の靈
地と云ふ山本
をのりて南山
の山家もあつた
と云ふ

高天原より入渡
東山と云ふ山本
武蔵の神と云ふ
並波松の神と云ふ
おん神と云ふ

あくく右の濱くく
総下の少の緑色深渺
少くく一守の中は雲
結のり南舟羽集毎
岫くく白雲止令

洞金鶴乃山く秋の
舟深増架じか巻
雄沐の山乃紅葉もく
伝濃あつ海宮は嶽水経ぬ
燈以園水きり舟の神門

小入遊せいのあそび 乃の峰のね 八はち本ほん松しょう谷や
河か子こ水みづ 茶ちや屋や 屋や 屋や 屋や 屋や 屋や 屋や 屋や 屋や 屋や
八はち咫ぢ鳥とりのの故こ事じ事じとと汎はんつつ
一いち瀬せ坂さか之の瀬せ平ひら端たん端たん坑けい
敷しきくく小せう坂さか城じやうとと建けんつつりり

中ちゆう師し町まち 乃の合がっ之の洞どう舟ふね系けい
中ちゆう之の酌しやく之の茶ちや内ない子しと
雇こいくく乃の二にのの洞どう乃の鶴つる栖すまをを
入いり右みぎ小せう出で度ど殿でん寺てら満まん乃の院いん
东とう叡い山さん管くわん轄くわつ乃の庄じやう別べつ苗めう

取たり神橋を渡に五門
 二力士と運舟の舟一乃
 善哉善哉の儀乃百丈の
 金髪及神を垂てし魂乃
 清の下は陳と千組乃

溪澗水清と石松岩
 の下は階のひ出峯は嵐小
 友ふと好景と蝶鳥の
 花と心と衆と神摺乃
 石門と心と懺麻橋

波まきつ 翠石 以者 在矣
年 泉 厩 序 楓 の 芽 矣
と 國 神 あり 玉 乃 正 面
孤 立 せ ず 岨 岩 法 深 矣 石
と 心 平 に 洞 窟 あり 深 淺 と

知 乃 心 中 社 此 岩 洞 也 矣
宮 極 大 敷 々 々 亦 亦 亦 知
と 椿 名 の 神 社 也 正 記 有
年 途 蹟 也 守 也 也 也 也 乃
大 神 法 院 也 正 殿 也

土の清祖埴山神 伊弉諾伊弉册
天照大神 天孫貴神和
素戔嗚尊 速日神 宇摩志摩
神 高湯又神 一ツ宮

居少從ひ 武道
軍陣 陰陽 醫方 農
民高貴 弟民大祖 神
身まの 取心 上古 身
上 貴人 億兆の 君

生に成り湯平地も美あり
あはれ神、西の神海
山みくもに流るる
障きし今此都前
思ひ出づ神威海神流

使部少之也地堂勝軍
地系諸塔和光因磨大
遊仁史者のあはれに友
大師堂護摩書の日
又以て烟きく凡山内あり

如栲社東社九十九社と
多巻評禊禊禊禊禊禊
の記志十所河川備
くくりし日形を出入り毎
沙雷本を毎り砥澤乃

男根石^{あんなこん} 笑^{わら}と借^{かか}りて種^{たね}
峠^{とうげ} 山中^{やまのちゆう} 秋^{あき} 野^の 下^{した} 湖^こ 水^{みづ}
赤^{あか} 花^{はな} 返^{かへ} 照^{あき} 波^{なみ} 渡^{わた} 小^こ
映^{うつ} 赫^{しやく} 手^て 鳥^{とり} 道^{みち} 好^{この} 好^{この}
嶽^{たけ} 崎^{さき} 晚^{ゆふ} 風^{かぜ} 煙^{えん} 煙^{えん}

拂ひぬきまじりて
 頃乃水西瞬の目
 明滅子夜方に響連丹
 喜乃形空をよる
 小魚の木中に躍る群鹿

野小遊るは木中人を畏
 殺生の若くは
 知系属士の嶽小波河
 安福の心まじりて鳥羽を
 西影を眺

心若くは
中

うらみ成みし年より日も
社毎回之殿に宿り求む事
能くもしくおろしき此心
棟より佛法僧侶善悪心
おまじき等類はまゝ反るる

心若くは

身中このおぼろげな
月夜に睡り枕より
のまじりにほろも早ね友を
寝てし善悪は毎ふ其人の

水みづ 澤さわ ぬ 目め 々々 々々 々々 々々
明あき 々々 々々 々々 々々 々々 々々 々々
帰かへ 々々 々々 々々 々々 々々 々々 々々

右 高井蘭心子園



享和三年
首夏日

徳 耕 一 次 也



江戸... 諸島... 東海... 寺子... 赤間... 上及... 松... 近... 新... 矣... 弟...

東都上野
 下谷町
 花屋久治郎

22073

御 注 意

- 本は大切に扱いましょう。
- 本は転貸借はお断りします。
- 10日間の期限に必ず返して下さい。
- 本を汚損または紛失した時は同一の本
又は相当代価を弁償していただきます。

群馬県立図書館
 前橋市栄町10番地
 (電話 3008番)

